

# トータルライフデザイン教育の構築と推進 - eポートフォリオシステム活用への取組み -

鳥居隆司\*1・古金谷博\*2・後藤宗理\*3・富田明美\*4  
飯田篤\*5・平野貴之\*6・川井幸治\*6・尾内里江\*7  
Email: torii@sugiyama-u.ac.jp

- \*1: 椋山女学園大学 文化情報学部
- \*2: システムズ・クリッパー株式会社
- \*3: 椋山女学園大学 看護学部
- \*4: 椋山女学園大学 生活科学部
- \*5: 椋山女学園 企画広報部
- \*6: 椋山女学園 総務部
- \*7: 椋山女学園 学務部

◎Key Words eポートフォリオ, キャリアデザイン, 就業力育成

## 1. はじめに

最近の急激な社会の変化や厳しい雇用情勢から、大学生の就職率の低下や新卒者の離職率の増加が問題となっている。このような背景から、2010年2月に改正され、2011年度より施行された大学設置基準では、「学生が卒業後自らの素質を向上させ、社会的・職業的自立を図るために必要な能力」を就業力と定義し、大学に就業力の育成を求めている。ここでの就業力は、単に卒業時に就職できることにとどまらず、さらに幅広い内容を意味するものである。それぞれの大学生活や学修が有効なものになるとともに、体系的な履修計画の下に学修が行われるよう指導・相談・助言などの支援を行うことが大切であり、講義などの座学によって得られる専門的知識や技術が、実際の現場等の第一線でどのように活用されるか実際に学ぶなど、目的意識をもって学修を継続・深化させることを重視している。また、卒業後に社会で必要な能力や実践的な能力を獲得することや大学生活を通じて修得した様々な知識や技術が、自分の中で有機的に統合され、将来、職業についての場合に求められる最低限の資質能力が形成されているかを自ら確認できる力を身に付けさせることなども求めている<sup>(1)</sup>。

本学は、高等教育の機能別分化として、「幅広い職業人養成」「総合的教養教育」「地域の生涯学習の拠点」にその特徴をおき、女子総合大学として、生活科学部、国際コミュニケーション学部、人間関係学部、文化情報学部、現代マネジメント学部、教育学部、看護学部の7学部を設置し、自立性・自主性・個性重視の教育で、豊かな人間性に裏打ちされた知識や技術を身につけ、時代のニーズに応える人材を育て、一定の成果を上げてきたと考えている。本学が目指すキャリア教育は、基礎的な学力は言うまでもなく、社会人としての基礎的・汎用的能力、とりわけ人間関係形成力や将来の自分の生き方をデザインする力を重視し、女性が大学卒業後の様々なライフステージで遭遇する多様な出来事に柔軟に対応できる能力を身に付けることを特色としている。そして、2010年度には、文部科学省の就業力育成支援事業プロジェクトに採択され、現在、eポ

ートフォリオシステムを構築し、日々の学習や様々な取組みを振り返り、学生と教員とのコミュニケーションを深めながら、生涯を通じて持続可能な就業力を身に付けられるようトータルライフデザイン教育を推進している。

## 2. トータルライフデザイン教育の概要

### 2.1 トータルライフデザイン教育の体系化

本学のライフデザイン教育は、女子総合大学としてのライフステージを意識したキャリア教育である。本学の設置する7学部には資格免許取得を目的とした学部もいくつかあるが、学生が将来、どのような場面に

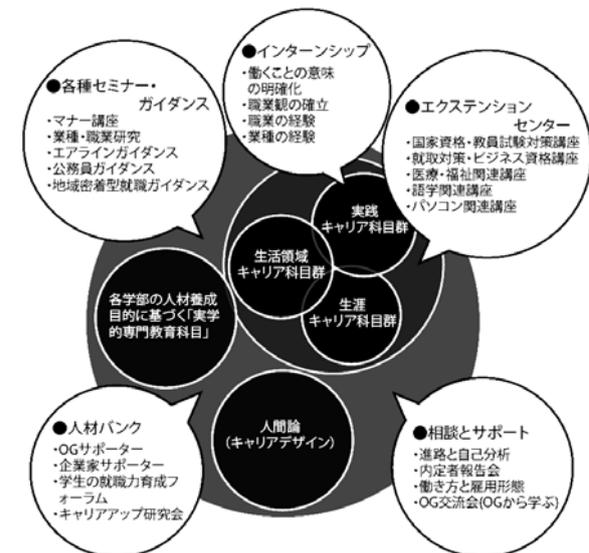


図1 キャリア教育を軸とした就業力育成のデザイン

遭遇しても対応できる能力に結び付けてとらえている。本学で取り組んでいるキャリア教育を軸とした就業力育成のデザインを図1に示す。このように、キャリア教育科目を全学共通科目としての「人間論」、教養教育科目・専門教育科目から「生涯キャリア科目群」「生活領域キャリア科目群」「実践キャリア科目群」、各学部の人材養成目的に基づく「実学的専門教育科目」とい

うように体系化し、教育課程内外の支援や様々な取組みと組織的に連携させて考えている。

まず、全学共通科目「人間論」において、自身のキャリアについて考える機会を提供する。「人間論」は、学生に「人間とはどんな存在か、人間はいかに生きるべきか」について、必要な知識を得るとともに学生自身の可能性を開発し、将来の生き方についての見識を培うことを目的とするものである。

そして、生涯キャリア科目群では、「仕事学概論」のほか、特定の職業的自立に限定することなく、生涯を見通し、広く社会的自立を視野に入れ、自身の生涯設計に関わる科目を配置している。

また、生活領域キャリア科目群は、女子総合大学の優位性を生かし、社会生活の幅広い具体的な各領域をデザインする際に資する科目である。その領域は、衣・食・住のデザイン、教育デザイン、健康デザインなどを中心とするもので、社会生活の幅広い具体的なライフデザインごとの課題についての考え方に資するものとし、それぞれ関連の深い学部を中心にキャリア教育を具体的に展開・支援するものとし、さらに、実践キャリア科目群では、これらの学びを受け、職業的自立を念頭に置きながら、自身の働き方のデザインに関わる科目を配置している。

## 2.2 トータルライフデザイン教育の進め方とステップ

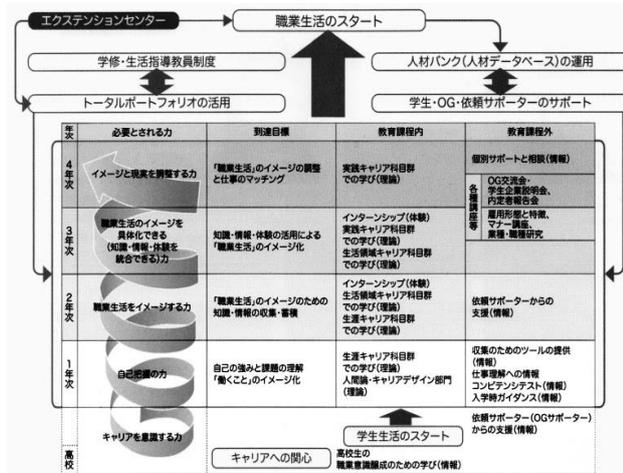


図2 トータルライフデザイン教育の進め方とステップ

本ライフデザイン教育は、具体的には、図2に示すようにスパイラルステップを経て実施される。

初年次では、自らの基礎学力を知り、「なりたい自分」への第一歩を踏み出すとともに、「人間論」及び生涯キャリア科目群において、キャリアについて考える機会を提供する。

次年度には、生活領域キャリア科目群において、各ライフステージでの課題の理解や職業観の確立のためのインターンシップも体験する。本教育に協力する卒業生や同窓会、連携企業などの様々な人材による講演会への参加などから「職業生活のイメージ」を描く。

さらに3年次では、そのイメージを具体化させるための実践キャリア科目群での学びやインターンシップ

を通して、専門的知識の職場での活用のされかたを学ぶとともに、卒業生との交流会や学内企業説明会等のキャリアガイダンスの場も提供する。

そして4年次においては、個別相談と自己の職業生活のイメージ調整を行うことで円滑な職業生活への移行を図る。このようなトータルライフデザイン教育は、学生が、単に人間の存在や生き方に関する知識、会社や労働に関する法律、社会の仕組み、あるいは、ワークライフバランスの考え方に基づく方法などを獲得することで達成できるものではない。トータルライフデザイン教育で獲得すべき知識は、学生は、社会的な営みにおいてそれを獲得する必要がある、生きるために必要な情報を獲得し適切に活用することで、様々な課題に立ち向かい解決することができる。その成果を継続的で多面的に自ら振り返り、他者から評価される過程そのものも学修の一部として必要な活動である。

そこで、本研究では、これらの学修活動によって得られる成果物や学修履歴を収集し、それらの成果物ができあがる過程も含めて継続的に振り返ることのできるツールとしてeポートフォリオシステムを導入し、全学的に活用を推進している。

## 3. eポートフォリオシステム

### 3.1 トータル・ポートフォリオ・システム

eポートフォリオシステムは、多くの大学で利用されているが、オープンソースのeポートフォリオシステムとして Sakai CLE(Sakai Collaborative Learning Environment)上に構築される OSP(Open Source Portfolio) や、オンラインポートフォリオ機能に、ソーシャルネットワークワーキング機能を追加した Elgg, SNSの機能やブログ機能で容易に利用できる Mahara<sup>(2)</sup>などがある。

前述のようにトータルライフデザイン教育には、ポートフォリオシステムが不可欠であるが、それ以前に学生や教員、事務職員ともにポートフォリオを利用したことはほとんどなく、それぞれ、学修履歴、授業履歴、業務履歴などを記録する習慣やその過程で生成される成果物の蓄積や選択、振り返りの経験も非常に少ない。このような点などを考慮した結果、オープンソースのeポートフォリオシステムの中から比較的操作性がよく、簡単に利用できるブログ機能を持ち、管理者の操作やカスタマイズも容易な Mahara<sup>(3)</sup>を選択し、本学のトータル・ポートフォリオ・システムとして構築した。

### 3.2 トータル・ポートフォリオ・システムの利用

本学のeポートフォリオシステムは、学修とキャリアを融合した「トータルポートフォリオ」であり、トータルライフデザイン教育の実現のために、学修やキャリアに関する様々な情報を学生自らが継続的に考えながら収集し、それらの情報の中からある目的のために選択した情報や振り返りを他者と共有しながら活用する。具体的な取組みとしては、体系化された授業科目での学び、自己発見レポート、ロールモデルの提供などがある。体系化された授業科目での学びでは、トータルライフデザイン教育のカリキュラムとして体系化された授業科目内での学びにおいて興味・関心のある

科目を自由に選択し、働くことについて、そして自身のキャリアについて考える機会を提供する。

自己発見レポートの取組みでは、客観的な視点から自らの成長感を実感できる。そして、それらの結果に対する振り返りや行動を他者からのコメントなどとともに整理することで、なりたい自分に向けて新たな一歩を踏み出すことができるようになるのではないかと考えている。



図3 トータル・ポートフォリオ・システムにおける様々なワークシートの例

ロールモデルの提供においては、就職を具体的に考えるタイミングのみならず、各年次において、本学の長い歴史のなかで様々な業種・職種で活躍されている卒業生から提供される情報を聞く場を設けている。

これらの取組みをに蓄積し、振り返りを行った結果は、学修・生活指導教員からの指導・助言やキャリアサポート課からのサポート・アドバイスをより効果的・具体的なものにもし、働くこと・職業生活を具体的にイメージさせ、各学部の教育目的に基づいた専門教育と結びつき、高い「社会的・職業的自立」と「就業力」

を具備させることに繋がると考えられる。また、大学でのキャリア教育以外の様々な講義や演習などを受講した結果として、学生自ら取り組んだ学習内容や理解度、気づいた点などを記録し、振り返るとともに、教員からのレビューやコメントなども得ながら成長できる仕組みも備えている。

#### 4. トータル・ポートフォリオ・システムの機能

トータルライフデザイン教育のためのトータル・ポートフォリオ・システムは、前述のような活用を実現するために、「目標や取組み、成果などをまとめて記録するワークシート」「学修や課外活動の成果物を保存する機能」「自己発見レポートなどの結果報告書から、振り返り、保存する機能」「保存した内容を幾つかの切り口で見る機能」「自他の評価や目標設定などの履歴を保存する機能」「目標、成果を公開し、批評を交換する機能」「履修カルテによる振り返りを保存する機能」などの機能を備えている。いくつかの機能について以下に示す。

##### 4.1 目標や取組み、成果などをまとめて記録するワークシート

目標を立て、後から振り返ったり、思うところを記録したりするためのワークシートの入力フォームを提供している。それぞれのワークシートは通常のアーティファクトと同様にビューを用いて公開できる。なお、各入力領域は、Maharaの標準的な形式に準じた書式指定や、画像の取扱いができる。

##### 4.2 学修や課外活動の成果物を保存する機能

マイポートフォリオのマイファイル機能を用いて電子ファイルだけでなく、紙面成果物も酪農学園大学で開発された「飛ぶノート<sup>4)</sup>」を利用して、各種の成果物を保存、蓄積することができる。



図4 成果物等の保存、蓄積機能

##### 4.3 自己発見レポートなどの結果報告書から、振り返り、保存する機能

自己発見レポートやキャリアアプローチ等の結果をPDFファイルとして一括処理することにより、それぞれの学生に用意されている一時フォルダに保存し、それらの結果に対する取組みを行うことのできる機能を構成した。図5は、自己発見レポートの結果を参考に

しながら、これまでの成果を確認し、社会的な強みの変化について考え、将来に向けて行動するため取組みの例である。

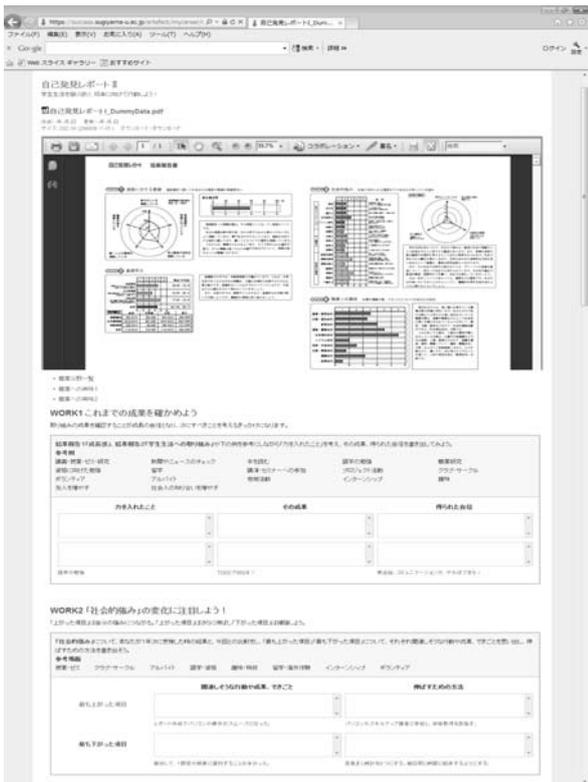


図5 自己発見レポートに対する取組みのための機能

4.4 履修カルテによる振り返りを保存する機能

本学の教務システムとのブリッジ機能を通じて本システムに保存された情報を、履修カルテの各様式に従って表示し、学生に記入させる機能である。以下に各シートの内容を示すが、授業科目名に「シラバス記事へのリンク」が設定されているので、いつでもシラバスの内容を容易に参照できる。なお、履修カルテの様式に従った印刷出力も可能である。

5. 考察

本システムを構築し、若干のゲーミフィケーション的要素の追加やインターフェース等の改良を行い、全学的に有効活用する方向で推進しているが、始まったばかりということもあり、全学で組織的に利用されているものは履修カルテである。現時点で、狭い意味ではあるがキャリア教育に関連して、文化情報学部では、将来について考える機会や自らの社会的な強みを把握し、基礎的な学力や知識などについての確認だけでなく、初年次および2年次を通して行うことで、自らの成長感を実感できる取組みを行っており、また、人間関係学部および生活科学部生活環境デザイン学科において、初年次に同様の取組みを行った。

この他に、授業内での成果物をこのポートフォリオにアップロードし、学生間でのレビューや教員からのコメントや支援を得ながら授業を進める授業スタイルの授業も散見されているが、全学で組織的に活用されるまでには、至っていない。

今後は、学生が自らの活動履歴や成果物を蓄積する

意味やその効果を理解させることで、積極的にトータル・ポートフォリオ・システムを活用しようとする態度への導くよう努めたい。



図6 様々な授業に利用できる履修カルテ機能(教職の履修カルテに適用した例, ログイン回数により, 右上の杉の木が成長していく。)

6. おわりに

大学生の就業力育成の支援を行うためにトータルライフデザイン教育の構築と推進に取組み、全学的に統一されたカリキュラムの提供やこれらの教育を支えるツールとしてオープンソースをベースにカスタマイズを施したトータル・ポートフォリオ・システムを導入した。今後は、eラーニングで学べる汎用的なキャリア教育の教材の他、ワークライフバランス、ダイバーシティをキーワードとしたコンテンツなども充実させ、キャリアデザインに関する授業等でのブレンド型の利用が可能なものとする事も計画している。そして、ポートフォリオによる真正な学習に関する基礎的な知識や手法などを浸透させるとともに、タブレットPCや携帯情報端末などからも利用しやすいユーザ・インターフェースなどを改良などにも取組んでいきたいと考えている。

謝辞

本研究の一部は、大学生の就業力育成支援事業による助成を受けたものである。

7. 参考文献

- (1) 大学設置基準, 大学生の就業力育成支援事業公募要領, 中央教育審議会「将来像答申」など
- (2) Open source e-portfolio and social networking software - Mahara ePortfolio System <https://mahara.org/>
- (3) Fレックス 福井県大学連携プロジェクト(<http://f-leccs.jp/>).
- (4) 酪農学園大学(<http://www.rakuno.ac.jp/>)で開発された「飛ぶノート」